

異なる文化の理解からともに生きる社会を考える

～ 国際理解教育の手法を人権学習へ～

< 高等学校 >

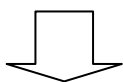
目的 国際化が進展してゆく社会の中で、異なる宗教、習慣等の文化を互いに尊重しながら、「ともに生きること」を追求する意識や姿勢を育てる。
参加体験型学習の手法により、「表現し論議する力」、「偏見を見抜き公正な結論を導き出す力」、「差異を受容し人間関係を築く力」、「集団的非暴力的に問題を解決する力」等を育成する。
すべての人が人間らしく生きる権利を有することについて認識する。

気づく

海外の写真や物品から、それらのものに込められた情報やメッセージを探り出す

海外の風景を写し取った1枚の写真や1個の食料品のパッケージから情報やメッセージを読みとる練習をするとともに、自分の答えに隠されている先入観や固定観念に気づく。

フォト・ランゲージ
四つのコーナーKJ法
ブレイン・ストーミング

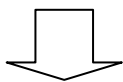


広げる深める 1

貿易ゲームや難民ゲームにより、公正や公平でない立場を疑似体験する

世界貿易における途上国や紛争時の難民の状況を、漠然とイメージするのではなく、疑似体験の中で感じ取り、その不公平感や悔しい思いを通して、実際の社会でその立場にいる人々に思いを寄せ、共感的に理解をする。

貿易ゲーム
難民ゲーム
ワークショップ
異文化体験ゲーム
無人島ゲーム
非識字体験ゲーム

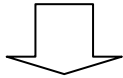


広げる深める 2

海外研修員や留学生の講話、民族衣装の試着、民族料理の調理体験など、自らの体験により新しい気づきを生み出す

実際に本物を体験することにより、新しい気づきや課題を発見する。

ビデオの活用
海外研修生、留学生招聘
ワールドボックス（民族衣装・道具・教科書）
民族料理の調理体験

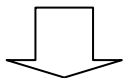


計画する

国際協力のスタッフとして途上国でどのような活動を行う事ができるかを、与えられた情報からシュミレーションする

国際協力へのかかわりを主体的立場で考える。
問題の認識、対応方法の確認、現実的な方法や行動範囲を援助を必要としている側の人たちを巻き込んで計画する。

青年海外協力隊
(参加シュミレーション)
PCM手法
(開発援助事業のためのプログラム)

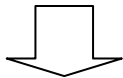


実践する

自分たちのできる国際協力について考え行動する

日常生活の中から継続してできることを実践する。

生徒会活動や文化祭と連携募金活動等



振り返る

ワークショップやシュミレーションで得た意見や考えを相互に発表し交換する

自分の意見を正確に多くの人に伝える。
他の人の意見や考え方を認める。
自由に意見や考え方を表明できる雰囲気をつくる。

ランキング
ディベート
ディスカッション

【学習を進めるにあたって】

- ・さまざまなアクティビティーや疑似体験を通して、感じたことや気づいたことを交流し合うことが価値観や視野を広げるために必要なことである。ただ、ワークショップの手法のみの紹介にとどまることのないようにしたい。
- ・他国の文化とともに、自国の文化についてもふりかえる機会をもち、互いの文化を尊重する姿勢を身につけさせたい。
- ・ワークショップの手法の詳細については、滋賀県教育委員会生涯学習課のホームページを参照してください。

<http://www.longlife.pref.shiga.jp/virtualtown/lib/hamon23/2yutaka/5workshop.html>